

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成27年4月30日(2015.4.30)

【公開番号】特開2013-195625(P2013-195625A)
 【公開日】平成25年9月30日(2013.9.30)
 【年通号数】公開・登録公報2013-053
 【出願番号】特願2012-61743(P2012-61743)
 【国際特許分類】

G 1 0 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 1 0 H 1/00 1 0 2 Z

G 1 0 H 1/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月13日(2015.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

前記課題を解決するために、本発明の楽音発生装置は、

演奏操作子の動きを検知する動き検知手段と、

前記動き検出手段により検知された前記演奏操作子の動きに対応したループ演奏用のループパターンを記憶手段に記憶させるパターン記憶制御手段と、

前記記憶手段に前記ループ演奏用のループパターンが記憶されている場合、前記演奏操作子の動きに基づく楽音とともに、当該ループ演奏用のループパターンに基づく楽音を発音手段から発音させるように制御する発音制御手段と、

を備えていることを特徴としている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

演奏操作子の動きを検知する動き検知手段と、

前記動き検出手段により検知された前記演奏操作子の動きに対応したループ演奏用のループパターンを記憶手段に記憶させるパターン記憶制御手段と、

前記記憶手段に前記ループ演奏用のループパターンが記憶されている場合、前記演奏操作子の動きに基づく楽音とともに、当該ループ演奏用のループパターンに基づく楽音を発音手段から発音させるように制御する発音制御手段と、

を備えていることを特徴とする楽音発生装置。

【請求項 2】

前記動き検知手段により検知された前記演奏操作子の動きが、前記演奏者による操作が演奏操作であるか、前記ループ演奏用のループパターンを記録するパターン記録用操作であるかを判断する操作判断手段を更に備え、

前記パターン記憶制御手段は、前記操作判断手段により前記演奏操作子の動きが前記パターン記録用操作であると判断された場合、前記動き検出手段により検知された前記演奏

操作子の動きに対応して前記ループ演奏用のループパターンを記憶手段に記憶させることを特徴とする請求項 1 に記載の楽音発生装置。

【請求項 3】

前記発音制御手段は、前記操作判断手段により前記演奏操作子の動きが演奏操作であると判断された場合、前記動き検出手段により検知された前記演奏操作子の動きに基づく楽音を発音させる発音指示を前記発音手段に与えるとともに、前記記憶手段に前記ループ演奏用のループパターンが記憶されている場合、前記演奏操作子の動きに基づく楽音とともに、このループ演奏用のループパターンに基づく楽音を前記発音手段から発音させる発音指示を与えることを特徴とする請求項 2 に記載の楽音発生装置。

【請求項 4】

前記演奏操作子を複数備え、

前記操作判断手段は、前記動き検知手段による検知結果から前記複数の演奏操作子が同時に操作されたと判断された場合、当該複数の演奏操作子による同時操作を前記パターン記録用操作であると判断することを特徴とする請求項 2 又は請求項 3 に記載の楽音発生装置。